



市民活動・ボランティア活動情報誌

2021年3月12日

No.198

福祉よこはま

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会



「福祉よこはま」は、横浜市が編集に協力しています

特集 多様性とともにある あたたかな眼差し



成人を祝う会で撮影をする後藤さん(手前)
成人を迎えた山本さんとご家族(奥)
(1月8日撮影:みどり福祉ホーム)
右は後藤さんが撮影したご家族の写真
⇒詳しくは特集で

もくじ

p4 福祉の仕事 言語聴覚士(ST)

p5 Let's tryボランティア 点訳ボランティア 子どもから大人まで読む姿を想像しながら

p6 市社協情報 成年後見制度をもっと身近に

ここから最新号と
バックナンバーを
ご覧になれます



福祉よこはま 検索

多様性とともにある あたたかな眼差し

“日常の中にある幸せのカタチ”を写しだすママフォトグラファー

活動をはじめた経緯



▲フォトグラファー後藤さん

息子が生まれて、違和感を抱きながらも障害があるのか分からない「グレーゾーン」の時期がありました。出かけていても不安が付きまとい、子育てを楽しめず、笑ってないなあと感じていました。そんな中、同じ子育て中のお母さんたちとの出会いを通して、子どもと接するときに自然とあふれる笑顔に魅了され、同時に自分自身も同じように笑っていることに気が付いたんです。**忙しい日常の中でも、“その笑顔や今しかない素敵な時間を過ごしていることを伝えたい”**と感じたことが活動を始めるきっかけでした。そうした出会いや気付きは、**環境は変わらなくても子育てを楽しいと感じられる力につながりました。**



活動を通しての思い

「やさしさや見えないあたたかい思いに気付くことができたとき、もっと幸せを感じられる自分になれる」

障害のある子とご家族の幸せオーラを撮影する「Loveフォトプロジェクト」。撮影に参加されたご家族は「私こんな表情で笑ってるんですね」と驚かれたり、家族の存在や見守ってくれている方の大切さに改めて気が付く中で、人のあたたかさを感じ、感謝の気持ちに溢れています。撮影のお手伝いをしてくださるボランティアの方たちも、「喜んでいる笑顔が見たくて」と子どもたちを通して自然と幸せの交換をし、あたたかい時間をともに感じるひとときです。

こうした場が少しでも広がっていき、**互いに相手のことを思いやる気持ちを持ち、身近な人に寄り添える関係が地域の中で少しでも深まっていけば**と感じています。



障害の有無に関係なく、同じ人は一人もいない

人を表面的に捉えるのではなく、**ともに時間を過ごしたり、相手の声に耳を傾けたり、寄り添い理解し合おうと思う気持ち**が、**本質的な理解につながる**のだと思います。そのようにしてお互いの価値観を知ることは、日々の生活を豊かにしてくれます。

息子に障害があると分かった際に、自分が感じる以上に周りの方に心配され、大変なイメージがあるのだと感じました。障害があることは決して特別なことではなく、**障害の有無に限らず、日常のカタチは人それぞれ**です。息子は言葉を持たないですがとても愛おしい存在には変わらないし、**それが私たちの幸せの時間であり、日常**です。一面だけで捉えるのではなく、そうした素晴らしい価値観に気付いてもらえたらと思います。

地域の中では誰もが違いを抱えながら暮らしていて、「自分との違い」に目を向けるのか、ともに地域に暮らす存在として「ありのままに受け止める」のか、その思いは眼差しとなって表れます。私たち一人ひとりの眼差しは、時にあたたかなつながりを生み出します。多様性を受け止めるために大切なことは何か。障害のある子とその家族のための写真を撮り続ける後藤さんの活動を通して考えていきます。

撮影に参加したご家族の思い

人生のパートナーです

息子の壮太が中学に一人で通うようになると、毎日道で会う方が声をかけてくれたり、通りのお店の方が気にかけてくれていて、気が付けば多くの方が見守ってくれていました。

自分や息子が働きはじめるときも、背中を押してくれる存在がいたからこそ一歩踏み出すことができ、息子の成長にも気付くことができました。他の子との違いに不安を感じたこともありましたが、今思えば障害があるからというだけでなく、子育てには悩みはつきものだと思います。今はコロナ禍での不安もあり、大好きなお出かけができなくなったことは残念ですが、互いに仕事が休みになったときには、久しぶりの2人の時間をゆっくりと過ごしています。



▲武田さんと壮太さん



家族をつないでくれる存在です

気が付くとみんなが周りに集まって、愚痴を聞いてもらったり大好きな音楽を一緒に聴いたり…自然と優奈が家族の中心になっています。優奈は決してかわいそうな存在ではなく、話せなくても表情や態度で気持ちを伝えることはできるし、純粋でひたむきな姿が私たちをいつも癒してくれます。できないことを嘆くよりも、ここまでがんばれたと考えること、そして地域の中で優奈のような存在が隣にいても当たり前と思える世の中になれば、もっとこのやさしい世界が広がっていくような気がします。



▲大坂屋さんご家族と優奈さん

後藤さんが撮影した写真は、下記でもご覧いただけます。

〈Love フォトプロジェクト「障がいのある子とそのご家族の写真展」〉

- 令和3年5月12日(水)～5月26日(水)
都筑区子育て支援センターポポラサテライト(ららぽーと横浜3階)

〈横浜市社会福祉協議会主催〉

- 令和3年3月10日(水)～3月31日(水) (予定) 横浜市健康福祉総合センター 8階

ホームページ

<https://love-photo-smile05.webnode.jp/>



ブログ

<https://ameblo.jp/lovephoto3016/entry-12429852378.html>



インスタグラム

@love_photo3016
https://www.instagram.com/love_photo3016





言語聴覚士(ST)

横浜市南部地域療育センターで
言語聴覚士として働く

えの もと のぶ こ

榎本 伸子さん に聞きました

ご家族と一緒に答えを探しながら
「その子の世界」とのコミュニケーションの
カタチを探していく仕事です。

この仕事を選んだきっかけ

- ▶ 子どもの頃まだ学童保育が少なかった時代、古いバスを利用して立ち上げられた学童でたくさんの経験をしたことが、漠然と子どもと関わる仕事がしたいという気持ちにつながりました。大学で心理学を学ぶ中で言語聴覚士の仕事について知り、継続して寄り添いながら、ご家族と一緒にお子さんの成長に携わることができるところに魅力を感じました。

言語聴覚士としての関わり

- ▶ 検査だけでは分からないこともたくさんあり、ご家族に普段の様子などを伺いながら、好きなこと、感じていること、できることを一緒に考えていきます。
伝えたいという思いが育ち、ことばに限らずコミュニケーションができるようになると、生活の中の不便さも減ってきます。伝わった経験は親子ともに自信につながり、もっと伝えたいという意欲にもつながります。そのためにまずはその子の好きなことを見つけてコミュニケーションの糸口を探ることから始めます。

心がけていること

- ▶ 家族のカタチはそれぞれで、私の世界とその子の世界は異なるものです。専門職としての考えを押し付けるのではなく、その子の世界をいかに想像できるか。そのために相手のお話や思いをどれだけ引き出せるか、お子さん、ご家族それぞれがどう感じているかを大切にしています。

喜び、やりがい

- ▶ “子どもの小さな変化に気付くことができたので、来てよかった”と言っていたときはとても嬉しいです。1人で悩みを抱えていた方が他のご家族と共有できたり、それぞれの障害について自然と理解ができたり、互いの関わり方を参考にしたり、そうしたつながりはこのセンターの魅力です。

この仕事を目指す人へ

- ▶ お子さんやご家族から教わることもたくさんあり、そこでの経験は、また次に出会うご家族にも返していくことができます。ことばの成長の原動力には、コミュニケーションがあります。よきコミュニケーションのパートナーとして、人のかかわりが好きな方にはとても魅力的な仕事です。

言語聴覚士とは

言語聴覚士(ST: speech therapist)は話す、聞く、食べることについての専門職。摂食・嚥下^{せつしよく えんげ}の問題にも専門的に対応します。さまざまな専門職、機関と連携しながら、問題の本質を明らかにし、検査・評価、訓練、指導、その他の援助を行い、コミュニケーションの面から自分らしく豊かな生活が送れるよう支援します。ことばによるコミュニケーションの問題は脳卒中後の失語症、聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害など子どもから高齢者まで幅広く現れるため、言語聴覚士は医療機関、保健・福祉機関、教育機関など幅広い領域で活躍しています。

地域療育センターとは

0歳から小学校期までの療育の必要な子どもに対し、訓練、相談及び指導、診療などを行い、地域における療育体制の充実及び福祉の向上を図っています。



◀ 聴力検査の様子
(写真では人形で再現しています)

言語聴覚士のとある一日

- 8:45 教材準備、ミーティング
- 9:00 指導(言葉の練習)
- 9:45 聴力検査(聞こえの問題の確認)
- 10:00 相談対応(検査、評価)
- 12:00 給食(食事介助、食べる機能の指導)
※13:00~14:00 休憩
- 14:00~ 指導やフォロー、ご家族への助言、他職種との連携

◆ この記事に関するお問合せは ……………

横浜市社会福祉協議会 企画部企画課 ☎ 045-201-2090

横浜市内の
福祉人材に
関する
求人情報 ➡



ウェルじゃん
求人情報



横浜市
介護人材情報

Let's try
ボランティア



子どもから大人まで 読む姿を想像しながら

点訳
ボランティア



コロナ禍で多くのボランティアグループが活動を模索する中、視覚に障害のある方の「本を読みたい」「勉強したい」という気持ちに応えるため、その方を想像しながら点訳活動をしている団体、「**インテグラル**」についてご紹介します。

点訳ボランティアグループ「インテグラル」

平成7年に点訳ボランティアグループを発足。理数・情報処理分野に特化し、学習教材や、物理・数学の高度な専門書まで幅広い点訳依頼を受けています。

月1回定例会を行い、依頼された本をどのように点訳するか確認・相談しあい、メンバーで手分けして点訳作業をしています。

依頼は盲学校からの子ども向けの教材が多く、大学卒業後も勉強を続ける社会人、物理の勉強を続けている方などからの依頼も受けています。



この絵はどうやって
描いたらいいかな？

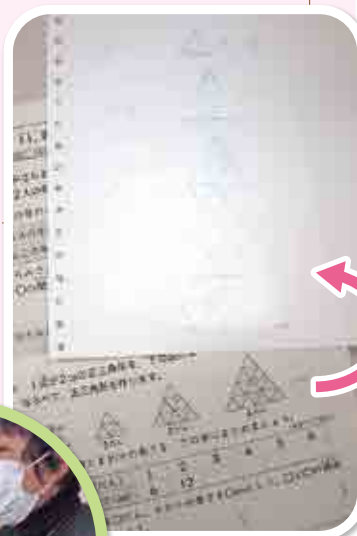
これでいい
かな？

「点訳」ってなあに？

墨字(活字)を点字に翻訳すること。

点訳ボランティアは視覚障害のある方のために、書籍や雑誌、新聞などの内容を点字にして伝えるボランティア活動です。

文章だけでなく、
絵やグラフも
点字にします。



インタビューしました！

Q1 コロナ禍で依頼内容に変化はありましたか？

A1 休校に伴い、自宅学習用ドリルの依頼がかなり増え、次々に作業をする状況でした。休校がいつまで続くかわからず先生も不安だったと思います。これまでは、分からない部分は対面で先生と打合せができたのですが、メールと郵送でやりとりをする形に変わり、コミュニケーションが難しいです。また、メンバーの集まる機会をつくれないため、メール・電話で連絡を密にし、自宅のパソコンで点訳を続けました。それでも行き違いは生じるので、データを送りあい、校正作業を念入りに行いました。

Q2 コロナ禍で工夫したことは何ですか？

A2 今までではメンバーがコンビニで本をコピーしていましたが、コロナ対策として学校にコピーを送っていただくようお願いしました。また、定例会をするときは対面時間を短くするため、前もって話し合う内容を確認しています。その結果、効率的に打合せをすることができています。

Q3 活動をしていてやりがいは何ですか？

A3 「2週間後の授業に使いたい」、「難しい内容だけど点訳してほしい」、「絶版の本が手に入ったので半年でも1年でも待つから点訳してほしい」など、さまざまな要望に応じて、点訳の機会をいただけるのがメンバー全員うれしいんです。調べて点訳することが好きなメンバーばかりで、誰かのために少しでも役に立ちたいという思いで活動しています。

横浜市ボランティアセンターより

横浜市内には、視覚障害のある方や視覚障害のある方を支援する方々のための総合的な福祉施設「神奈川県ライトセンター」があります。

視覚障害援助
ボランティア育成や
研修会等行っています。

神奈川県ライトセンター
ホームページはこちら ➡



この記事や
ボランティアに関する
お問合せはこちら

横浜市ボランティアセンター
☎045-201-8620
ホームページはこちら ➡



成年後見制度をもっと身近に

横浜市における成年後見制度の利用促進に向けた中核機関として、市からの委託により、令和2年4月に「よこはま成年後見推進センター」が横浜生活あんしんセンター内に開設しました。

成年後見制度に関する広報や相談体制の構築、後見人活動の支援等を実施しております。

詳細は横浜市社会福祉協議会ホームページをご覧ください

URL <http://www.yokohamashakyo.jp/ansin/yokohamaseinenkoken.html>

相談専用電話 045-201-2088



賛助会員のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。令和2年10月16日～令和3年1月15日 新規受付・継続受付分 順不同・敬称略

団体会員

- 株式会社 エースプラン
- 大黒倉庫 株式会社

個人会員

- 薩田 庄二
- 佐藤 邦彦

詳しくはホームページをご覧ください ▶

【問合せ】横浜市社会福祉協議会総務部 総務課 ☎ 045-201-2096



みんなのきもち ありがとう

みなさまからお寄せいただいたご寄付は、地域の助けあい、支えあい活動のため、有効に活用させていただきます。



ひとり親世帯むけ食支援 「ヨコ食ギフト」 「ヨコ食クリスマスギフト」

横浜市社会福祉協議会では、新型コロナウイルス感染症の影響などにより困窮する方へ、寄付金を活用した食の支援を行っています。

今回は令和2年12月に実施した、「ヨコ食クリスマスギフト」を受け取ったみなさんからのメッセージをご紹介します。

寄付額 7,073,400円

配布世帯数 1,250世帯

内 容 お米、お餅、お菓子など



寄付者へのありがとうメッセージ

箱を開けた娘が、「わあー！クリスマスカラーだ!!」と大喜びし、胸がいっぱいになりました。

息子に見せた瞬間「すごい！餅が入っている！神！」と喜んでいました。

ご寄付をいただき、
ありがとう
ございました!!

病気で失業してしまい、コロナで外出も怖いので、送っていただき本当にありがとうございます。これから先考えもつかない日々ですが、食べるものがあることがどれほどありがたく嬉しいことか。

お米の他お菓子まで…。ホットケーキミックスで、久しぶりにクリスマスケーキ作りたいです。



詳細はこちらから
ご覧ください。



横浜市ボランティアセンターでは、寄付のご相談をお受けしています。☎ 045-201-8620

寄付者のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同・敬称略 令和2年10月1日～12月31日受付分

善意銀行 金銭寄付者

- 株式会社 悠石
- 株式会社 高栄設備工業
- 宗教法人 真如苑
- 横浜冷凍 株式会社
- オレンジセオリーフィットネス 関内
- 匿名 (3件)

善意銀行 物品寄付者

- 公益財団法人 みずほ教育福祉財団 理事長 塚本 隆史 (3件)
- イケア・ジャパン 株式会社 IKEA港北 マーケットマネジャー 野山 和美
- 三菱重工業 株式会社 三菱重工グループ労働組合連合会本社・横浜地区本部

- 横浜信用金庫
- 株式会社 日立物流南関東 日立物流「まごころ基金」
- 千代田化工建設 株式会社
- 株式会社 イトーヨーカ堂
- 神奈川トヨタ商事 株式会社
- 大和ハウス工業 株式会社

よこはま あいあい基金寄付者

- 公益財団法人 神奈川霊園
- 匿名 (1件)

障害者年記念基金寄付者

- 匿名 (1件)

福祉基金寄付者

- 一般社団法人 横浜シンフォニエッタ
- 横浜信用金庫

匿名 (5件)

ヨコハマ寄付本寄付者

- ウィリング横浜 利用者一同
- 横浜市社会福祉センター 利用者一同
- 株式会社 川上工務店
- 神奈川区福祉保健活動拠点
- 横浜市西区社会福祉協議会
- 三井住友信託銀行 上大岡支店
- 栗飯原 智佳子
- 横浜市篠原地域ケアプラザ
- 匿名 (64件)

※寄付者については、横浜市ボランティアセンターのホームページでも掲載させていただいています。

横浜市
ボランティア
センター



みんなの声



前号の感想

いろいろな活動があると思いました。
福祉を辞書でひくと、人々の幸福で安定した生活を公約に達成しようとするということとありました。
...幸福で安定した生活とは？
人によつての違いがあるのが今「現状」の実態で、心の笑顔かなと感じました。

(青葉区 O.I)

毎号の記事を読み、毎週行っているデイサービス等で情報交換に使用しています。大変助かります。

(栄区 S.N)

特集記事で、「認知症カフェ」の存在を初めて知りました。認知症に対し誰にでもなりうるものと捉え、そうである人もそうでない人も孤立せず関わり合えることの大切さ、素晴らしいさを感じました。両親や私自身の近い将来に備え、その存在を氣にとめておきたいと思います。

(横須賀市 K.K)

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりは、参加者同士のつながり、マスクごしのおしゃべりがどれほど必要か、コロナ禍の今だからなおさら心に染みしました。表紙の皆さんの元気な笑顔、素晴らしいです。

(横須賀市 H.T)

寄付をとおした、コロナ禍での支えあいの記事に関して。(ポラセン情報ページ)

新型コロナウイルス感染症の影響で、思いもよらないしわ寄せを受けている人がたくさんいることがわかりました。食支援を通して、共助の大切さはとても重要だと感じました。

(磯子区 Y.F)

「ヨコ食ギフト」の記事が良かったです。よくテレビ等で、食材を無料で生活に困っている人々に届けている等の特集を見ているので、横浜でも行っているのか気になっていました。コロナの影響で生活に困っている人たちは沢山いると思うので、これからも支援する活動を続けてほしいと思いました!!

(保土ヶ谷区 K.H)

認知症カフェを初めて知りました。友人のお母様が認知症と診断されたと聞いたので、教えてあげたいと思います。また、近所にあるみたいなので、覗いてみようかと思っています。

(港北区 M.H)

医療ソーシャルワーカーの仕事、はじめて知りました。入院時の不安、退院後の生活の希望を持つことへのよりそい等を、ともに考えてくれるという身近な存在でいてくれるのはすばらしい事と思いました。

(戸塚区 N.K)

福よこクイズ

ご応募・ご感想
お待ちしております!

地域活動支援センターという「ミニバッグ(ランチバッグ)」プレゼント!

地域活動支援センター「という」は、港北区の東横線綱島駅から徒歩3分のところにある、高次脳機能障害の方々が通う地域作業所です。

受注作業の他に、刺しゅう、ミシンでバッグやポーチなどの雑貨を製作しています。

刺しゅうは、それぞれ味のある模様を。それをミシンで丁寧に縫いあげています。全一点物の製品となっています。



色・柄はお任せください

- Q1** 特集：後藤さんが撮影するのは、日常の中にある〇〇のカタチです。
(漢字1文字、ひらがな1文字)
- Q2** 福祉の仕事：言語聴覚士(〇〇)はコミュニケーションのパートナーです。
(アルファベット2文字)
- Q3** 市社協情報：成年後見制度の利用促進に向けた中核機関として、〇〇〇〇成年後見推進センターが開設されました。(ひらがな4文字)

応募方法

はがき・FAX・Eメールにて、右記をご記入のうえお送りください。

抽選で**15名**の方に
プレゼントを差し上げます。

締め切り：
令和3年4月30日(金) 必着

【応募先】

〒231-8482
横浜市中区桜木町1-1
横浜市社協
「福よこクイズ」係

FAX：045-201-8385

Eメール：fukuyoko@yokohamashakyo.jp

【個人情報取扱】

※応募に関わる個人情報については、当選者への発送及び福祉よこはま紙面作成の参考のためにのみ利用させていただきます。

【項目】

- 1) Q1~3の答え
- 2) 郵便番号・住所
- 3) 氏名(ふりがな)
- 4) 年齢 5) 電話番号
- 6) 福祉よこはまの入手方法
- 7) 福祉よこはまの感想
- 8) 「みんなの声」次号掲載時の氏名の掲載可否(匿名希望の場合はイニシャルを記載)



前号197号の福よこクイズの答えは、Q1：カフェ Q2：MSW Q3：70 でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

編集後記

多様性の理解のためには、違いを理解するのではなく、同じ地域に住む住民として、相手を思いやり寄り添うことが大切なのではないでしょうか。そうした関係の中には豊かであたたかな眼差しが溢れていて、幸せを感じる力、強さにもつながっているように感じました。眼差しのもつ力はプラスにもマイナスにもなります。あたたかな眼差しに触れる中で、自分自身の価値観を見つめ直すきっかけにもなりました。

次号 ▶ No.199 令和3年6月 発行予定

〈発行〉
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
☎045-201-2090
FAX: 045-201-8385
Eメール：fukuyoko@yokohamashakyo.jp
URL：http://www.yokohamashakyo.jp
〈デザイン〉
株式会社 オールスタッフ

「福祉よこはま」は、共同募金配分金の一部を活用して発行しています。



ほら、
よこはまは
変わったかい

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

横浜市社協は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

広告

福祉保健研修交流センター ウィリング横浜

ウィリング横浜

検索



福祉関係従事者のみなさま、必見!

情報資料室 <利用者登録制>

福祉保健関連の図書、資料、逐次刊行物、会報紙・広報紙、ビデオ・DVDを収集している県内唯一の**福祉保健専門図書館**です。県内在住・在勤・在学の方ならどなたでも「利用者登録」できます。

開館日：火～土/9時～21時、日・月/9時～17時
※変更する場合はホームページに掲載します。
休館日：毎月第2金曜・年末年始・臨時休館日

問合せ：☎045-847-6677

こころの相談室<予約制・無料>

職場の人間関係や仕事、家族の悩みを公認心理師等の資格を持つ**専門カウンセラー**が相談に応じます。プライバシーは守られます。安心してご利用ください。
電話相談もうけたまわります。

対象：市内在住・在勤の社会福祉事業所等で働いている方、民生委員・児童委員など地域で福祉関係の活動をしている方、その関係者

相談予約：☎045-847-6688 ※祝日・年末年始を除く

予約受付：月～金/10時～18時、土/14時～16時

駅近！ 便利な貸会議室のご案内

目的や立地に応じて使い分けられる2施設
福祉・保健関係者を対象とした施設ですが、一般の方もご利用いただけます
※感染症対策のため、利用条件等が変更となる場合があります

福祉保健研修交流センター ウィリング横浜

上大岡駅
徒歩 3 分

多様な貸会議室をご用意しています

4～240名まで収容可能な研修室、実習室、和室など30室を備えています。ソーシャルディスタンスを保ったレイアウトにてご利用いただけます。ぜひご利用ください。 ※有料・要事前予約



車いす、介護ベッドなどを
備えた介護実習室



詳しいご利用についてのお問合せは

福祉保健研修交流センター ウィリング横浜
TEL: 847-6666 FAX: 345-0799
〒233-0002 港南区上大岡西1-6-1
ゆめおおおかオフィスタワー内
開館時間: 9:00～21:00
休館日: 年末年始、設備点検日

ウィリング横浜 検索

横浜市社会福祉センター ホール・会議室を使ってみませんか？

桜木町駅
徒歩 2 分

ホールや会議室などの貸出を行っています。会議室は最大108名まで、ホールは306名まで収容可能。平日は夜9時までご利用いただけます。ぜひご利用ください。 ※有料・要事前予約



みなとみらい地区が
一望できる会議室も
あります



ホールは、研修会や
講演会などの会場として
人気です

詳しいご利用についてのお問合せは

横浜市社会福祉センター
TEL: 201-2060 FAX: 201-6116
〒231-8482 中区桜木町1-1 横浜市健康福祉総合センター内
開館時間: 平日9:00～21:00 (土日祝日は17:00まで)
休館日: 毎月最終月曜日、
年末年始、設備点検日

横浜市社会福祉センター 検索

指定管理者: 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償！！

令和2年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入！！

保険金額・年間保険料（1名あたり）

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術	入院中の手術	65,000円	
	保険金	外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
賠償責任	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料			350円	500円

団体割引 20%適用済 / 過去の損害率による割増引適用

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

商品パンフレットは
コチラ

(ふくしの保険ホームページ)



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03 (3349) 5137
受付時間: 平日の9:00～17:00 (土日・祝日、12/31～1/3を除きます。)

損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03 (3581) 4667 FAX: 03 (3581) 4763
営業時間: 平日の9:30～17:30 (12/29～1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。